

# News Letter

Center of Research for CMM  
(Creative Music Making)

第5回 CMMニュースレター

今年は突然の雷や雨に悩まされることが多い夏でしたが、いかがお過ごしでしょうか。さて、大変遅くなりましたが、ニュースレターとして第5回CMM研究会の活動を報告いたします。

第5回CMM研究会 Center of Research for Creating Music Making  
文教大学越谷キャンパス14号館 14101R  
2024年7月21日(日) 10時～16時

## 【第5回 CMM研究会活動報告】

「音楽を通して一つになる楽しみを体感できる音楽づくり」をテーマに、全国各地から第一線でご活躍中の皆様にご参加いただきました。対面参加は計33名、オンデマンド希望の方が41名と、第5回CMM研究会の内容への関心の高さがうかがえました。

### Part1 ワークショップ

『リトミックの要素を取り入れた音楽づくり —ダルクローズ・メソッドの学校教育への反映』  
プレゼンター：高倉弘光（筑波大学附属小学校副校長）

ダルクローズ指導者資格をお持ちの高倉先生によるお話と、ピアノ演奏に導かれて、聴く能力の発達に向かうダルクローズ・メソッドを体験しました。

『「クルーシス」は突然やってくるものではない。「アナクルーシス」があるから「クルーシス」が来る。「クルーシス」の後にはリリース、衰退、減衰が必要である。これが「メタクルーシス」。この繰り返しが小節である。』という高倉先生のお言葉が特に印象深いものでした。剣道の面の動きに合わせて手を打つ活動を経て、「ダニー・ボーイ」を歌いながら「クルーシス」を感じ取って動く活動へ発展する中、参加者の体の動きが変容し、拍に対する感覚が研ぎ澄まされて音に思いをもった表現が生まれていく様子が伝わってきました。まさに高倉先生のおっしゃる「音の中に一体化する」姿に向かうようでした。子どもが「音に思いをもつ」とはどういうことなのか、そして教師が子どもの体の動きから音楽の何を感じ取っているのか、を考える手がかりを得た貴重な時間でした。



### ♪高倉 弘光先生より♪

今回、近藤真子先生にお誘いいただき、ご参加の先生方とリトミックを楽しむことができたことは大きな喜びです。御礼申し上げます。

「リトミック」は、今から130年ほど前、スイスの作曲家・教育家のダルクローズ博士によって創案されました。本来のリトミックは、固定ドを基本とした「ソルフェージュ教育」、音楽にあるさまざまなリズム上の課題などを体の動きを伴ってトレーニングする「リズム運動」、また音楽を自らが自由につくり出す「即興演奏」の3本柱でその教育体系が成り立っています。

今回のワークショップで、リトミックの特徴的な「小節」に関わる考え方をもとに♪Danny Boyを歌いながら動いたときには、感動で心が震えました。

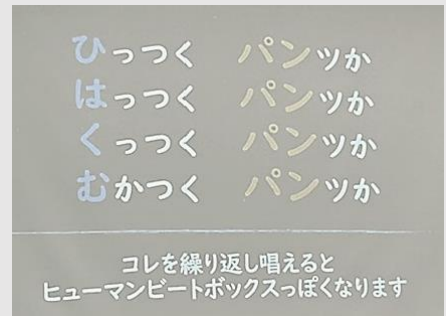
午後からのクロック・オーケストラの活動は、私にとって大変刺激的でした。制限のある時間、そして仲間との音を介したコミュニケーション、偶然性をも伴う音楽の緊張感、この3つが相まって、楽しい音楽づくりができました。私は小学校の教員ですが、自分の授業でもリトミックの要素をミックスさせながら、クロック・オーケストラに取り組んでみたいと思っています。

Part2 ワークショップ

『感性を生かして「ビートレカードでヒューマンビートボックス！」

プレゼンター：河本洋一先生（札幌国際大学教授）、すらぶるため（ビートボクサー）

2つめのワークショップは、第4回CMM研究会にご登壇いただいた河本先生と、日本三大ビートボクサーのすらぶるためさんに導かれてヒューマンビートボックスにどっぷりと浸った時間でした。「ひつつくパンツか…」を繰り返し唱える参加者は、ヒューマンビートボックス風の表現を目指して工夫しました。しかし！すらぶるためさんが同じ言葉で表現すると、生き生きしたビートボックスの世界が広がり、腰が抜けたような衝撃を味わいました。すらぶるためさんは「はじめは音が全くでないが、動き自体が面白く、ずっとやっていたらだんだん音が出るようになった。ずっと納得するまでやり続ける、それこそ答えを自分の声でつくる。はじめは出口のない迷路をさまよっている感じだ」と話されました。音を生み出し続けるエネルギーを糧に楽しむ人の実感が宿る言葉でした。



ワークショップ後半は、1人1枚のビートレカードを使って、グループで8拍のリズムを音にして表す活動、音を想像してカードに表す活動を行いました。グループで試行錯誤する場面、グループ発表後の河本先生とすらぶるためさんの話から、息を吐く・吸うという呼吸の基本を意識・工夫して深化することが、声を出して表現することに直結すると実感しました。また、舌や顎の動きを意識することで色々な声の出し方として展開され、さらに表現が広がる様子を目の当たりにしました。

そして、ビートレカードの文字の色・形・言葉から、「自分はこの音を感じた」という感覚に基づく試行錯誤のプロセスに価値があり、リズムの気持ち良さを感じることで自分が納得する音楽の世界につながることに気付かされました。

音をカードに表す場面では、河本先生も初めて見たという漢字を使った表現も…「自分でカードを書きたくなる時期がくる」というお話から、子どもの音楽への思いを引き出すため、時には機を待つことも必要であることを再認識しました。ビートボックスは模倣が上手な小さな子どもたちのほうが楽しみながら活動できるとのことでした。

目の前の子どもたちと音楽づくりの授業でやるとしたら…、大切な手がかりをいただいた、幸せなワークショップの時間でした。



♪河本 洋一先生より♪

正解はありません。敢えて言うなら「正解は自分で創り出す」それが、ビートレカードの精神です。ヒューマンビートボックスの基礎音を遊び感覚で習得し、音楽づくりへつなげていくことを目的に創られたビートレカードのワークショップについて、すらぶるため氏は「色々な表現の方法を学べる貴重な機会をありがとうございました。凝り固まった頭が解れた気分です！」という感想をお寄せくださいました。参加者の皆様のアンケートからも、この教材の可能性や使用上の留意点など多くのデータを収集することが出来ました。本当にありがとうございます。

音・音楽を自らが創り出していくことができる、そのための特別な技術はあってもなくても、まず「感じること」「表現すること」が楽しい、と実感できるこの教材、いつでも、どこでも、だれでも、身体ひとつでできる手軽さはヒューマンビートボックスならではのと言えるでしょう。

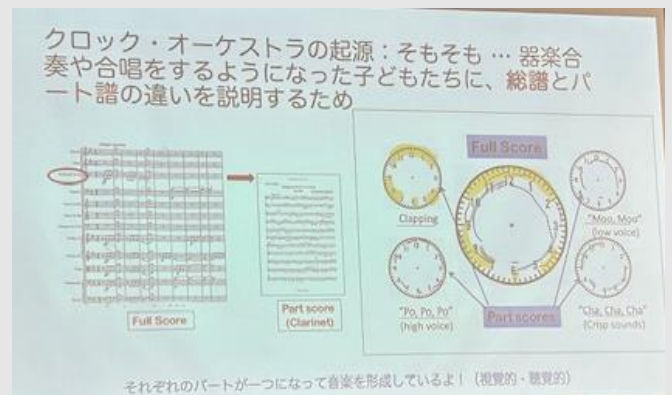
Ⅲ 体感できるクロック・オーケストラ（応用編）—高倉先生＆河本先生の活動をもとに—  
ナビゲーター 近藤真子、仲条幸一、高橋詩穂、中島千晴、小原梢

第5回最後のワークショップは、近藤真子先生と仲条先生、高橋先生、中島先生、小原先生による新たなクロック・オーケストラをつくる時間でした。

はじめに、近藤先生がクロック・オーケストラの実践について話されました。総譜とパート譜の違いがクロック・オーケストラの発想の元だったことが、とても面白いと思いました。

はじめに、全体でクロック・オーケストラをやってみました。1人1種類の音を担当すること、時計の絵の中に図で自分の音を表すこと、時計の秒針を目安に音楽が進んでいくことを共通理解しました。

その後、15分間でグループでクロック・オーケストラをつくりました。「今日のワークショップで学んだことを生かして、新しい音楽を生み出しましょう」という近藤先生のお言葉を聞いた後、すぐどのグループも集中して活動に取り組みました。ナビゲーターの先生方の実践例も、きっと参考になっていたことでしょう。



各グループの音楽は、拍のある音楽・拍のない音楽を組み合わせる様々な素材を用いた音楽で、動きを伴う場面では「クルーシス」を感じているように見えました。それぞれの個性が溢れており、ニュースレターも音で伝えられたらいいのに…と思うほど熱い表現ばかりでした。

- ①高橋グループ テーマは花火。紙、声、手拍子、楽器を使った動きを伴う音楽。
- ②仲条グループ ボディパーカッション、カスタネット、トーンチャイムを使って音楽を構成。
- ③中島グループ 足手拍子、声、動きを使って音楽を構成。
- ④小原グループ ボディパーカッション、声、動きを使って音楽を構成。

グループ発表後は、「クロック・オーケストラは1人1人が持っている音楽をクロックがつかないでいる面白さがある」（高倉先生）、「ストレスがない。タイミングを合わせられなくて失敗した、ということがないのが子どもにとっていいことだと思う。」（中島先生）、「秒針の動きと子どもたちが鳴らしたいところがぴったり合わないことが出てくる。そうなったときに、作り出せる可能性がたくさんあるのがクロック・オーケストラの面白さをより引き出すのだと思う。」（高橋先生）、「楽譜を読めなくても、針の動きだけみて自由にやっていたら、まとまった曲っぽい感じになるところがいい。本能的な感覚でやりながら、構成などは理性で冷静にコントロールしているという点がビートボックスと同じで興味深かった。」（すらぶるためさん）というお話がありました。参加者の皆さんは聞きながらお話を聞いていて、クロック・オーケストラの魅力が明らかになった場面だと感じました。

最後に近藤先生から、音楽づくりのアイデアが豊かでも、それらをまとまりのある音楽にしていくのが難しいという現場の声に照らして考えると、つくろうとしている音楽全体を見ながら、ここはこうするという構成に必要な発想を明らかにできるクロック・オーケストラは子どもがやりやすい音楽づくりの可能性があること、実践後の子どもの声を授業づくりに生かしていきたいという願いが伝えられ、ワークショップがまとめられました。

近藤 真子先生より

今回も学びの多い大変充実したお時間となりました。ありがとうございました。



♪お知らせ♪

今回プレゼンターの河本先生からです！

8月には幼稚園教諭のスキルアップ・セミナー、9月には音楽療法関連の学会、10月以降には教員養成の出前講義や園児向けワークショップと、「布教活動」を続けて参ります。またお会いしましょう！

ビートレカードは札幌シアタープロモーションより10月1日から受注販売を開始いたします。教育現場へ広く普及させるために様々特典もご用意しました。詳しくは、下記QRコードから販売告知ページをご覧ください。CMM研究会の皆様には、クーポンコードを発行し特別価格でご提供いたします。この機会に是非購入をご検討ください。「Educational Beatbox」という会員サービスも始めることになりました！

★CMM会員限定 ビートレカード・クーポンコード [CMM2024BC]

10月1日以降、ご注文フォームにクーポンコードを入力すると特別価格で購入または、サービスが受けられます。



異常ともいえる今夏の暑さ、これから毎年この暑さを乗り切って生きていく過酷さに愕然とします。しかし、授業づくりのために学ぶ有意義な時間を過ごすことができるのも夏休みです。

次回のCMM研究会も対面で開催する予定です。皆様と、音楽を楽しみ、熱く語りあえる機会になりますように...ご参加お待ちしております。

◆お問い合わせ

問合せ・運営事務担当： 岡部 昌代

メール： [cofr.cmm.2021@gmail.com](mailto:cofr.cmm.2021@gmail.com)

(記録：熊倉佐和子 文責：近藤真子)